



# 八幡大神宮

はちまんだいじんぐう

## 不焼宮(やけずのみや 縁起)

鎮座 大阪市旭区清水三丁目二十番十九号

御祭神 八幡大神

春日大神

蛭子大神

### 由緒

天智天皇(661～671)の頃、現在地の辺りに藤原氏が春日大神を産土神として祀ったのが始まりといわれています。

別名を「不焼宮」といわれています。これは建武・延元(1334～1339)の頃浄土宗本山来迎寺の開祖誠阿上人が師法明上人の遺命をうけ、男山八幡宮の宝物を授かって、北河内佐太に寺院を建立するために帰る途中、これをねたむ法明上人の弟子達に追われて当宮に身を隠しましたが、見つけ出されて火を放たれました。

しかし、火はたちまちにして消えてしまい、追ってきた弟子達は誠阿上人の徳に接し、ついには上人に帰依したといわれています。以来、「不焼宮」と称されるようになりました。

その後、誠阿上人は、佐太に来迎寺を建立し、当時の保護にむくゆる為、男山八幡宮の御分霊を当宮に奉祀したのが、八幡大神を御祭神とした由来である。この縁によりて来迎寺の住職の交代毎に当社に来拝するのを例とし現在も続く。

数年後、疫病の流行にて多数の村民が死亡し、誠阿上人に悪病退散の加持祈禱を乞いその靈験により村民の病が平癒したので、従来の主神を相殿として八幡大神を主神とした。



■八幡大神宮 正面

## 八幡大神宮

かつて馬場村の集落北端 字榎並に鎮座し、応神天皇・春日大神・蛭子大神を祀る。旧村社。「撰津志」には「三社神祠」とみえ、馬場・般若寺・別所・上辻の鎮守。

境内は四百余坪にて老楠老榎が生い茂り社頭をおおう。本殿の他に幣殿・拝殿・御輿庫を存す。

本殿は室町末期の手法を蛙股・肘木・斗に残し彩色は稚拙なるも最高の技法を用いている。

尚、五輪塔一部、徳川初期石灯籠を残す。例祭は九月十五日 佐太来迎寺より貫主以下参拝し、神仏合体の祭典をなす。

夏祭七月十五日

秋祭十月二十三日

現在 例祭と夏祭の斎行は第二日曜日。



■八幡大神宮 本殿



■境内の様子は八幡大神宮  
由緒写